

どんな人が関わってるの？ 生の声を聞こう！

真庭なりわい塾イベント

真庭なりわい塾には、どんな人が参加しているのでしょうか。卒業生や講師、そして地域にU・Iターンした人の、生の声を聞いてみませんか。スペシャルゲストとして伊藤洋志氏(LLPナリワイ代表)をお迎えし、2地域で開催します。



イベントは終了しました。ご来場いただき、ありがとうございました。

どんな地域？ 実際に訪れてみよう！

現地見学・説明会

塾のフィールドである、真庭市北房地区を訪ねてみませんか？ 塾長の澁澤寿一(NPO法人共存の森ネットワーク理事長)はじめ、地域にU・Iターンしたスタッフが皆さんをお迎えします。広々とした田園風景にブドウ畑、素敵なカフェなど商店街再生の取り組みも必見です。

日時 2021年7月10日(土)／11日(日) いずれも13:15～15:30

場所 北房振興局 北房文化センター(JR津山駅より送迎あり)

参加費 無料 定員 30名(要申し込み)

真庭なりわい塾 第5期 募集要項

申し込み締め切り
2021年
7/13
(火)必着

期間：2021年8月～2022年3月
※月1回の現地講座のほか、オンラインによる補講を行います。
場所：岡山県真庭市北房地区
定員：20名程度
応募条件：20歳以上の方
受講料：2万円(初年度)(学生1万円)
アクセス：塾の開講にあわせて高速バスのバス停より無料送迎を行います。
高速バス 大阪から約3時間／岡山から1時間
自家用車 現地(真庭市北房地区)まで、
大阪から約3時間／岡山から1時間
宿泊：希望者には前泊できる施設を紹介いたします(素泊まり2500円～)
応募方法：Webサイトの「応募フォーム」より、お申し込みください。
(書類選考後、7月15日～18日の期間で、オンラインにて、簡単な面接を予定しています)
締め切り：2021年7月13日(火)必着
お問い合わせ：真庭なりわい塾事務局
連絡先 〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2
真庭市交流定住推進課内(担当:小藤、植田)
Tel.0867-42-1179 Fax.0867-42-1353
mail:maniwa.nariwai@gmail.com

※開催にあたっては、国や各都道府県の方針に従い、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行います。状況により開催内容が変更・延期・中止になる可能性があります。あらかじめご了承ください。最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

まずはWebサイトへ 真庭なりわい塾

岡山県真庭市とは

真庭市は平成17年に9町村が合併し、誕生しました。市の北部には蒜山高原が広がり、日本一を誇るジャージー牛の乳製品は全国的に知られています。南部は農林業が盛んで、泉質良好な湯原温泉、のれんの町並みで知られる勝山町並み保存地区などがあります。

良質なスギ・ヒノキを産出する林業、木材加工業が盛んで、市の象徴であるバイオマス産業を支えています。近年、出力1万キロワットの木質バイオマス発電が稼動。「里山資本主義」の先進的取り組みとして、全国から注目を集めています。



北房地区について

真庭市南部に位置する北房地区は、人口約5000人。昭和28年に皆部町、上水田村、水田村、中津井村が合併し、北房町となったエリアです。鍾乳洞や古代の古墳群があり、「日本一のホテル」や「コスモスの里」としても有名です。

近年は、「北房まちづくり株式会社」が中心となって皆部商店街の再生に取り組み、また、地域おこし協力隊として入った若者が「コスモポリタン田舎づくり」を目指して、シェアハウスを運営する等、さまざまな動きが生まれています。果樹栽培に情熱を傾ける人、キャンプ場の運営をはじめた人、イベント企画に音楽、そしてながしのパートナーなど、多様ななりわいを組み合わせながら働く、若者や移住者が増えています。



こんな人が塾生です！

- 今の働き方を変えたい。
- 半農半Xな暮らしをしたい。
- 農山村に移住するきっかけがほしい。
- 地域資源を活かしたスモールビジネスに関心がある。
- 農山村と都市をつなぐシゴトがしたい。
- フランクに語り合える仲間がほしい。

なりわい塾 2021

農山村には1000の「なりわい」があります。

真庭

岡山県真庭市
北房地区
にて開講

第5期生募集中！

お金ばかりに頼るのではなく、自ら「つくる」暮らし。——どこで、誰と、何をするのか。これからのライフスタイルと一緒にデザインしてみませんか。

主催：真庭なりわい塾実行委員会
(岡山県真庭市・北房地区・NPO法人共存の森ネットワーク)
協力：大和ハウスグループエンドレス募金

詳細・申し込みはWebで！
真庭なりわい塾



真庭なりわい塾とは・・・

岡山県真庭市の農山村エリアをフィールドに、はるか昔から紡いできた暮らしに学びながら、これからの農山村と新たなライフスタイルを模索する人材育成塾です。



多様な「なりわい」で地区と人の活性化を目指す北房地区。真庭なりわい塾で、漠然とした「思い」をカタチにしていきたいと思いますか。

カリキュラム

2021年8月～2022年3月

地域を歩いて、見て、聞いて、農山村の暮らしへの理解を深めるとともに、個々の「なりわい」をイメージし、キャリアプランを描いていく全8回の講座です。

プロジェクト企画・実践

- くらし 自然の恵みを活かした暮らしを創る力
- 稼ぎ コミュニティビジネスを創造する力
- つとめ 地域で暮らしを支えあう力
- つながり 志をともにする仲間との出会い



カリキュラムを通じて、こんな力が身につきます

- ◆ 地元の方やIターンした先輩たちとの交流を通して、地域資源を活用しながら、自ら暮らしを創る力を養います。
- ◆ 地元学や聞き書きを通して、地域を知り、地域に愛着をもち、地域に溶け込むとはどういうことかを体感します。
- ◆ 地域の課題やその解決への模索、実践などを通して、新たな「なりわい」を構想していく力を養います。
- ◆ 講座や活動を共にし、自ら一歩を踏み出す勇気を得るとともに、同じ志をもつ仲間をつくります。



1年目「基礎講座」

〔地域をみつめ、地域に学ぶ〕

- 第1回 (8月8日) 入塾式／先輩の話を聞く
- 第2回 (9月12日) 集落をあるく・みる・きく
- 第3回 (10月3日) 地域の産業と暮らし～食と農～
- 第4回 (11月7日) 地域のお年寄りに聞く

〔これからの社会を考える〕

- 第5回 (12月5日) 地域の産業と暮らし～林業とバイオマス～
- 第6回 (1月9日) 地域コミュニティと自治
- 第7回 (2月13日) 農山村の未来を考える～地域と経済～
- 第8回 (3月13日) 卒塾式～自分でみつける「豊かさ」と「幸せ」の基準～

2年目「実践講座」

※2年目「実践講座」は、仲間とともに、地域の課題やその解決を模索するプロジェクトプランを実践し、新たな「なりわい」を構想する力を養います。
(全5回の講座を予定／参加は任意)

塾長
瀬澤 寿一



稼ぐための職業から
生きるための
生業(なりわい)へ

「働く」という言葉の意味は何でしょうか。語源は、「傍(はた)を楽にする」だといわれています。「はた」というのは、あなたの傍らにいる人のことです。つまり、料理をするのも子育てすることも「働く」だし、集落総出で草刈りをするのも「働く」でした。ところがいつの間にか、働くことは「お金を稼ぐこと」になりました。水も、食料も、エネルギーも、そして教育や医療、福祉、さらに暮らしの安全や安心も、お金で「買う」のが当たり前になったのが今の暮らしです。

日本は、いわゆる高度経済成長期以降、工業製品を海外に「売る」代わりに、食料やエネルギーを海外から「買う」ようになりました。経済のグローバル化は、環境破壊を引き起こし、貧富の格差も広がっています。お金だけのために、何か大切なものを犠牲にしているのではないのでしょうか。

もともと、日本人の暮らしは「お金」によってではなく、「身近な自然」と「コミュニティ」に支えられていました。「百姓」という言葉に象徴されるように、多種多様な生業を組み合わせながら働き、家族を養ってきました。暮らしは「買うもの」ではなく、「つくるもの」だったのです。

当塾は、真庭市をフィールドに、ローカルに根差した新たなライフスタイルを模索します。たとえば、食料やエネルギーを、ある程度は自給する。季節ごとに複数の仕事を組み合わせながら働く。地域の困りごとを自分の仕事に変える。それぞれの知恵やネットワークを持ち寄って、スモールビジネスを立ち上げる。そんな生き方、働き方の選択肢も私たちにはあるはずですよ。

あなたは、どこで、誰と、何をしたいと考えていますか。漠然とした「思い」をカタチにしましょう。夢と志ある皆さんの参加をお待ちしています。
(NPO法人共存の森ネットワーク 理事長)

講師・メンター
(予定)



塩見直紀さん
(半農半X研究所)



伊藤洋志さん
(LLPナリワイ)



姜倫秀さん
(株式会社ふ代表)



門野由貴さん
(ながしのパートナー)



駒宮博男さん
(NPO法人地域再生機構理事長)

京都府綾部市在住。33歳でUターンし、NPO法人里山ねっと・あやべのスタッフとして都市農村交流事業等に携わる。21世紀の生き方・暮らし方として「半農半X(=天職)」のコンセプトを提唱。自給農に動しむ傍ら、国内外で講演や地域づくりのためのワークショップ等の活動を行う。

香川県丸亀市出身。京都大学大学院卒業。頭と体が丈夫になってやればやるほど仲間が育つ「ナリワイ」を実践。シェア・アトリエの運営、「モンゴル武者修行ツアー」のほか、「全国床張り協会」などギルド的団体運営も行う。著書に「ナリワイをつくる」「フルサトをつくる」など。

真庭市地域おこし協力隊を経て、今ではインターナショナル・シェアハウス、キムチ工場、カフェを手掛けるプチ実業家。日本に滞在する外国人と地域の皆さんをつなぎ、地域に眠っている魅力や可能性を再発見していく「コスモポリタン田舎づくり」を目指している。

真庭なりわい塾1期生であり、卒業後、真庭市へUターン。真庭なりわい塾の事務局を手伝いながら、出張bar「noom」を始める。パートナーの暁生氏はDIY×不動産流通という新たなカタチの不動産業を営んでいる。現在、家族で自宅をリノベーション中。ツリーハウスカフェを併設する予定。

※このほか、コミュニティデザインや山村起業の実践者など、さまざまな講師を予定しています。

塾の先輩たち

これまで参加した塾生は、20代～30代が中心で男女比はほぼ半々、岡山県内在住者のほか、半数以上は、大阪、京都などから毎月、通いました。講座は週末に開催するため、多くの塾生は、地区内のゲストハウス等に宿泊。地域の皆さんとも交流しながら過ごします。卒業した先輩の中には、真庭への移住を決めた人も！そのほか、島根や京都など、各地の農山村にIターンした先輩たちもいます。将来の夢も不安も、何でも語り合える仲間とさまざまなネットワークを得られることも、真庭なりわい塾の魅力のひとつです。



真庭なりわい塾の一年

各回の講座は、月1回の現地講座(毎月日曜日開催:座学やフィールドワーク、ワークショップ等)のほか、オンラインによる補講も行います。

1年目「基礎講座」

8月 入塾式 先輩の話を聞く

塾のガイダンスとあわせて、地域にIターンした先輩たちの生き方、働き方について学びます。塾生一人ひとりの夢や目標を語り合うワークショップを行います。

9月 集落をあるく・みる・きく

北房地区の集落を、グループごとに地元の人と一緒に歩いて、見てまわりながら、日々の営みの積み重ねや集落ごとの成り立ちを学びます。

10月 地域の産業と暮らし～食と農～

昔の暮らしをよく知るお宅を訪ね、食の変化や日々の農作業について聞き取りをします。自給のための「農」と、産業としての「農業」の違いについても学びます。

11月 地域のお年寄りに聞く

戦争を経験し、戦後の復興や高度経済成長期を生きてきたご高齢の方の人生を聞き書きし、この地に生きてきた人の思いと歴史を学びます。

12月 地域の産業と暮らし～林業とバイオマス～

森は、私たちの暮らしに、さまざまな恵みを与えてくれます。林業の現状や「バイオマスタウン」の成り立ちを含め、森と人の暮らしのつながりをトータルに学びます。

1月 地域コミュニティと自治

地域には、さまざまな祭礼行事や共同作業があります。教育や福祉などの公共サービスについても学びながら、地域単位の自治の大切さ考えます。

2月 農山村の未来を考える～地域と経済～

グローバル経済と地域経済に関する総括講義とあわせて、塾生一人ひとりが自身のナリワイを構想し、持続可能なライフスタイルを考えるワークショップを行います。

3月 卒塾式～自分でみつける「豊かさ」と「幸せ」の基準～

「X年後のわたし」と題して、これからの生き方・働き方を、一人ひとりの塾生が発表します。約半年間の講座で学んだこと、積み重ねてきたことの集大成です。

2年目「実践講座」(参加は任意)

里山資源の活用や果樹栽培の実践、特産品開発、空き家活用など、塾生の希望に応じて、複数のプロジェクトに分かれ、実践形式で学んでいきます。